

生命科学専攻（博士前期課程）

1. 教育研究上の目的

生命科学専攻は、学部教育で修得した生物を構成する分子・細胞、生物個体の構造・機能・相互作用などについての基礎的な知識の理解の上に、生命科学分野の高度な専門知識及び研究方法を幅広く身につけ、広い視野を持って自らの専門分野の研究に取り組み、成果を上げられる人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生命科学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 生命科学分野の基礎的な知識と研究手法を身につけ、学会等で発表可能な研究成果をあげることができる。
2. 幅広い課題に対して生命科学分野の専門家として立ち向かう知識と能力を有している。
3. 研究者もしくは高度専門職業人として活動するために必要とされる、生命科学分野の高度な知識と技能を修得した上で、自らの論理的思考・演繹力や価値の創造力をもって、それらを総合的に活用することができる。

（思考・判断・表現）

4. グローバルな学術情報の収集に欠かせない英語能力を有し、国際的な視野に立って自ら考え、発信することができる。
5. 周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりながら問題解決のための高度な「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

（関心・意欲・態度）

6. 自らの学びに責任を持ち、問題発見力と解決力をもって、未解決の課題に主体的に取り組むことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命科学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 生命現象に関する分子レベルでの理解を深め、研究を遂行するために必要な最新技術を修得するため、選択科目を配置する。(知識・技能)
2. 生命科学に関する最新情報を収集・理解し、それを正しく評価できる能力を修得するため、「生命科学特別演習」を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)
3. 生命科学に関する最先端の研究手法を修得するため、「生命科学特別研究」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
4. 学部での教育課程に基づき、生命科学分野のより高度な知識を体系的に学ぶことができるよう研究テーマを設定する(知識・技能)
5. 高度な研究能力を修得するために、各研究室での個別的な研究指導やセミナーを行う。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では専攻内での専門科目を体系的に組み合わせて、そして演習科目においてはゼミナールを開講することによって、高度な知識・技能を効率的に修得させることを目指す。
2. 実験科目では、指導教員の下で個別研究指導を行い、学生一人ひとりが入念な指導を受け、高度な研究能力を獲得することができる体制を整える。
3. 必修科目である実験および演習科目において、研究遂行に求められる倫理観や安全重視の思想を育む機会を提供する。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、学期末や平常時に行われる試験・レポートに加えて、学位論文の審査を通じて把握する。なお、論文審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 考察力・論理性、研究への取り組みにおける態度やプレゼンテーション能力は、ゼミナールでの発表や、学位論文の審査を通じて把握する。
3. 関心・意欲・態度の修得に関しては、学会での発表状況や研究発表会での口頭試問により把握する。

4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

生命科学専攻(博士前期課程)では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 生命科学分野において学部で習得すべき基礎的な知識を体系的にかつ確実に身につけている。

2. 学士課程で修得した理系の基礎となる学力を基に、専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している。

(思考・判断・表現)

3. 学士課程における学習を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献できる。

(関心・意欲・態度)

4. 修得した知識から新たな問題点を設定し、それを解決する熱意を持っている。
5. 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

以 上